

特別法要について

特別法要事務局局長 押小路蓮円

五十年に一度の御勝縁であります御開山御誕生八百五十年奉讃法会はじめとする特別法要もいよいよ間近に迫ってまいりました。今回の法要は「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう」をテーマに掲げ、粛々と準備を進めてまいりました。五月二十日に行います稚児行列を皮切りに、五月二十一日～二十八日までの期間中毎日一座の法会をお勤めします。二十一日法主殿の御親教を始めとし、各師の講演並びにイベントを用意いたしました。また二十日には法嗣殿就任奉告法会を厳修致しますことは二重の慶びであります。

顧みれば、コロナ感染症というかつて経験のない災厄に苦しめられてまいりましたが、ようやく

終息に向かいつつあります。しかし、まだまだ油断することなく態勢を整えて法要を迎えたいと存じます。

また記念事業として建設を計画しました新宝物館の工事も急ピッチで進んでおり、四月下旬には引き渡しを受ける予定となっております。

念仏の教えを伝える法宝物を末永く護持する宝物館をめざしており、皆様のおかげをもちまして名称を『燈炬殿』^{とうこてん}とさせて頂きたくことができました。開館したのちには、高田派檀信徒のみならず大勢の方々に足を運んでいただける素晴らしい企画展示をしてまいります。本年お七夜にはオープンとして、文化財活用室を開館し、多くの参詣者の皆様がVRをご覧になり、360度の映像を楽しんでいただきました。

この特別法要に關しまして多くの方々から多大なるご協力をいただきました。そのすべての方々
に感謝の気持ちと共に篤くお礼を申し上げます。来る御勝縁を皆様と共に賑やかに迎えたいものと存じます。

宗 達

宗 達 第一一八八号

真宗高田派宗制七十九条第三項により令和五年四月二十日第一七七臨時宗議會を召集せらる
令和五年四月四日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一八九号

真宗高田派宗制七十九条第二項により令和五年六月二十七日第一七八宗議會を召集せらる
令和五年四月四日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第 一 一 五 〇 号

令和五年四月二十日第一七七臨時宗議会を書面表決書にて行う

令和五年四月四日

宗 告 第 一 一 五 一 号

来る令和五年六月十一日第五十六回高田派婦人連合大会執行相成る

令和五年四月四日

宗務総長	宗務総長
大僧都	大僧都
増	増
田	田
修	修
誠	誠
宗務	宗務
大僧都	大僧都
増	増
田	田
修	修
誠	誠
宗務	宗務
大僧都	大僧都
増	増
田	田
修	修
誠	誠

任 免

依請解其職

誓昌院住職

梅林 正温

愛知県名古屋市中区新栄
補 久遠寺住職

久遠寺副住職

高山 信雄

令和五年四月一日
維那見習いを命ずる

智慧光院衆徒

玉樹 真修

依請解其職

久遠寺住職

高山 元智

組長交代

三重県松阪市星合町
補 明照寺住職

明照寺衆徒

藤澤 真樹

令和五年三月三十一日

依請解其職

愛知県第一組組長

玉腰 超克

依請解其職

明照寺住職

藤澤 眞純

令和五年四月一日

愛知県第一組組長を命ずる

正覺寺住職

山田 光照

依請解其職

光圓寺住職

望月 光演

住職拝命

三重県津市一身田大古曾
補 西信寺住職

西信寺衆徒

末崎 実明

令和五年三月二十九日

三重県亀山市西町

誓昌院衆徒

梅林 清香

三重県松阪市山室町
補 西楽寺住職

西楽寺副住職

高藤 史憲

補 誓昌院住職

副住職任命

令和五年二月十六日

三重県鈴鹿市寺家
任 正因寺副住職

正因寺衆徒

鷺尾 敦行

依請解其職

常福寺住職代務者

望月 光演

住職代務者

令和五年二月一日

三重県鈴鹿市国府町

要泉寺住職

織田 元海

三重県津市上浜町

至実院 康輝 准上座格三等 深正寺衆徒

春日部康輝

三重県鈴鹿市越知町

補 大音寺住職代務者

三重県亀山市西町

焰耀院 大智 准上座格三等 誓昌院衆徒

梅林 大智

令和五年三月二十九日

三重県亀山市関町久我

光圓寺住職

望月 和光

三重県松阪市星合町

響光院 唯真 院家首席一等 明照寺衆徒

藤澤 唯真

三重県亀山市関町福德
補 常福寺住職代務者

三重県松阪市星合町
温光院 真道 院家首席一等

明照寺衆徒

藤澤 真道

三重県松阪市駅部田町
凌雲院 治孝 院家一等

光明寺衆徒

鳥居 治孝

北海道中川郡池田町

樹心院 圓充 院家二等

長正寺衆徒

長井 充

三重県津市森町

星月院 妙真 老分二等

見立寺衆徒

峰 真琴

三重県津市森町

法聲院 妙諒 老分二等

見立寺衆徒

高嶋 諒佳

身分堂班

令和五年二月一日

列 其身一代堂班

中老一等

老分二等 老分一等

院家二等

西信寺住職

末崎 実明

布教任命

讚佛会復演

三・二一

日中

大僧都

清水谷正尊

僧階

令和五年三月七日

任 中僧都

權大僧都

讚佛会

三・一八

晨朝

權中僧都

田中 明誠

三・一九

晨朝

律師

水谷 忍英

三・二〇

晨朝

中僧都

隆 妙灑

日中

權少僧都

青木 義成

日中

權中僧都

中村 宜成

日中

真置 信海

三・二一 晨朝
三・二二 晨朝

三・二三 日中
三・二四 晨朝

三・二五 日中
三・二六 晨朝

三・二七 日中
三・二八 晨朝

三・二九 日中
三・三〇 晨朝

三・三一 日中
三・三二 晨朝

三月御影堂常在説教(晨朝)

三・三一 權中僧都
三・三二 權中僧都

三・三三 權大僧都
三・三四 權大僧都

三・三五 少僧都
三・三六 律師

三・三七 權中僧都
三・三八 權中僧都

少僧都 千草 篤昭
權中僧都 鷲山 了悟

少僧都 山中 真諭
權大僧都 戸田 栄信

權中僧都 藤浦 弘導
權中僧都 生桑 崇等

權中僧都 松山 智道
權中僧都 栗原 廣海

權大僧都 浦井 宗司
律師 大河戸悟道

權中僧都 安藤 章仁
權中僧都 田中 明誠

權大僧都 戸田 栄信
權中僧都 藤田 正知

少僧都 青木 妙法
律師 古芝 智泉

權中僧都 中村 宣成

三・三八

三・三九

三・一〇

三・一一

三・一二

三・一三

三・一四

三・一五

三・一六

三・一七

三・一八

三・一九

三月御影堂常在説教(逮夜・日中)

權中僧都 里榮 秀教
少僧都 岡 知道

中僧都 佐藤 弘道
律師 若林 妙百

中僧都 戸田 恵信
律師 隆 妙灑

中僧都 青木 義成
律師 水沼 碧水

中僧都 青木 義成
律師 堤 一真

律師 田中 唯聰
權大僧都 浦井 宗司

少僧都 上田 英典
律師 北島 心淳

大律師 北島 心淳
大律師 高島 光憲

律師 龍池 宏昭

少僧都 山中 真諭

中僧都 青木 義成

律師 水谷 忍英

三・一五 速夜
三・一六 日中

權少僧都 高藤 英光
權少僧都 高藤 英光

四・七
四・八
四・九

律 師 隆 妙灑
中 僧 都 青 木 義 成
律 師 若 林 妙 百
少 僧 都 山 中 真 諭

千部法会(日中)

四・六
四・七
四・八

權中僧都 松山 智道
少僧都 千草 篤昭
權少僧都 真置 信海

四・一〇
四・一一
四・一二
四・一三
四・一四
四・一五

權中僧都 大 律 師 高 島 光 憲
權中僧都 中 村 宜 成
權中僧都 村 上 英 俊
少 僧 都 生 桑 崇 等
權中僧都 青 木 妙 法

十萬人講法会(日中)

四・九
四・一〇

律 師 水 谷 忍 英
權中僧都 藤 浦 弘 導

四・一六
四・一七
四・一八

權中僧都 田 中 明 誠
中 僧 都 戶 田 惠 信
律 師 堤 一 真

戦没者追弔法会(日中)

四・一一

律 師 隆 妙 灑

四・一九
四・二〇
四・二一
四・二二

律 師 北 島 心 淳
權中僧都 戶 田 栄 信
權中僧都 田 中 明 誠

四月御影堂常在説教(晨朝)

四・一
四・二
四・三
四・四
四・五
四・六

權中僧都 藤 田 正 知
中 僧 都 青 木 義 成
權中僧都 里 榮 秀 教
權中僧都 鷺 山 了 悟
權中僧都 中 村 宜 成
少 僧 都 岡 知 道

四・二三
四・二四
四・二五
四・二六
四・二七
四・二八

權少僧都 真 置 信 海
大 律 師 北 島 大 道
少 僧 都 山 中 真 諭
權大僧都 浦 井 宗 司
權大僧都 浦 井 宗 司
少 僧 都 上 田 英 典

四・二九 律 師 山中 久行
四・三〇 権少僧都 真置 信海

四月御影堂常在説教（逮夜・日中）

四・一五 逮夜 権少僧都 高藤 英光
四・一六 日中 律 師 隆 妙灑

高田慈光院 月例法会

三・一〇、一六、二六 権大僧都 浦井 宗司
四・一〇、一六、二六 少僧都 山中 真諭

高田報徳園 月例法会

三・一五 権中僧都 田中 明誠
四・一五 律 師 隆 妙灑

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和五年

二・一二 北海道岩見沢市三条西

願勝寺前坊守

高島イソ子

三・一〇 愛知県岡崎市大和町

妙源寺住職

安藤 章仁

贈 中僧都

三・一〇 三重県松阪市中町

常念寺前住職

小妻 篤誠

贈 中僧都

三・二四 三重県津市雲出長常町

法泉寺住職

倉田 俊甫

贈 権少僧都

宗門のお知らせ

平等院殿一周忌御香儀芳名

平等院殿の一周忌に際しましては、高田派御寺院様より鄭重なる御弔慰並びに芳志を賜り有難く厚く御礼申し上げます。お蔭を以ちまして諸法事万端滞りなく如来堂にて厳修させていただきました。ここに御香儀賜りました御寺院様の寺号を記し謝意と共に御礼申し上げます。

なお、御同行・一般の方々よりも御芳志を賜りましたが、宗報への掲載は割愛させていただきます。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

- 本寺専修寺
- 京都別院
- 名古屋別院
- 神戸別院
- 北海道別院
- 関東別院
- 横浜別院乗願寺

三重第一組西部

智慧光院 玉保院

三重第一組東部

慈光寺

三重第二組甲部東

東海寺 信行寺

三重第二組甲部西

浄光寺 啓運寺

三重第二組乙部

願正寺

三重第三組

潮音寺 深正寺

三重第四組

善休寺 慈相寺

三重第五組

仲安寺 圓照寺

三重第六組北部

本樂寺 唯称寺

三重第六組東部

法性寺

満願寺

上宮寺

宗門のお知らせ

三重第六組西部

青巖寺 真性寺

三重第八組

明通寺

三重第九組西部

圓淨寺

三重第九組東部

普賢寺

三重第十組

千福寺

延寿寺

欣淨寺

信蓮寺

因誓寺

寶田寺

三重第十一組東部

西光寺

三重第十一組西部

淨明寺

福專寺

延命寺

三重第十二組東部

安樂寺

常樂寺

三重第十三組

淨源寺

三重第十四組

松原寺

三重第十五組

誓正寺 誓信寺

誓昌院

西徳寺

三重第十六組南部

青蓮寺

三重第十六組北部

光善寺

三重第十七組北部

西岸寺

三重第十七組南部

教安寺

三重第十八組

善教寺 興正寺

中山寺

三重第二十組

万性寺 大蓮寺

欣淨寺

誓元寺

三重第二十一組東部

信福寺 真永寺

養元寺

宣隆寺

正源寺

宗門のお知らせ

三重第二十二組東部

見潮寺

三重第二十三組

正運寺

隨念寺

常超院

三重第二十四組甲部東

正念寺

三重第二十四組甲部西

要泉寺

三重第二十五組南部

正法寺

三重第二十六組

本覚寺

光明寺

海念寺

常寶寺

三重第二十七組

妙華寺

淨徳寺

三重第二十八組

光明寺

愛知第七組

聖眼寺

京都

常樂寺

大阪

大乘寺

和歌山

崇賢寺

福井第二組

稱名寺(疥立)

北海道

専誠寺

弘専寺

真高寺

講社

御飯講

賽銭講

七里講

高田福祉事業協会

第四十六回住職補任研修会報告

去る二月二十五日(土)午後より二十六日(日)午前中まで、住職補任研修会が、教師五名参加の下に開催されました。

尚、研修内容は次のとおりです。

真宗教義と高田派の歴史

声明

住職道・布教道

宗教法人法・寺院規則

晨朝参拝・説教聴聞

法式作法

現状と課題（座談会）

九十分

九十分

九十分

六十分

九十分

六十分

以上

第五十六回

高田派婦人連合大会のお知らせ

六月十一日(日)十時より御影堂にて婦人連合大会を開催いたします。

式典を行なった後、講師に本多静芳先生をお迎えして講演をしていただきます。

なお、式典での祖師寿表彰は報告のみとさせていただきます。祖師寿該当者の方には、ご寺院様に賞状と記念品をお届けさせていただきます。

宝物館名称につきました

二〇二三（令和五）年五月に厳修します奉讃法会の記念事業として実施しました宝物館建設工事は概ね順調に進み、四月二十七日に引き渡しを受ける予定です。その後は、備品の搬入等を行い五月二十一日からの奉讃法会に合わせ開館の予定です。

さて、昨年三月から五月にかけて宝物館名称募集をいたしました。ご応募をいただきました皆様にはありがとうございます。選考の結果につきまして左記の通りご報告します。

記

1 宝物館名称

専修寺内で厳正なる選考を行い「燈炬殿（とうこでん）」に決定しました。令和五年三月一日に開催しました宝物館建設推進委員会において承認をいただきました。

2 選考基準と選考理由

- ① 簡潔明瞭で覚えやすく親しみやすいもの
- ② 施設の機能、特徴などをふまえたもの
- ③ 応募者自身の創作による未発表のもので、第三者の著作権、商標権などの知的財産権を侵害しないもの

前記の選考基準を満たし親鸞聖人の和讃に因んでいることから選考されました。

「燈炬殿」の文字は宝物館入り口正面に山号額で掲げいたします。皆様のご来館をお待ち申し上げます。

3 本件お問い合わせ先

〒五一四―〇一一四

津市一身田町二八一九番地

真宗高田派本山専修寺 特別法要事務局

電話番号 〇五九―二三二―四一七七

FAX番号 〇五九―二三二―四一七五

E-Mail : tanjou850@senjuji.or.jp

本山行事予定

(五月・六月)

五月六日～八日

堯禩上人御正當

特別法要

五月二十一日～二十四日

開山親鸞聖人御誕生

五月二十一日～二十四日

八百五十年 奉讃法会

五月二十一日～二十四日

立教開宗八百年

五月二十五日～二十七日

中興真慧上人五百年忌 奉讃法会

五月二十五日～二十七日

聖徳太子千四百年忌 奉讃法会

五月二十八日

第五十六回 奉讃法会

六月十一日

高田派婦人連合大会

六月十八日

仏教保育講座

六月十八日

高田派婦人連合大会

下付金のお知らせ

平成二十九年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたします。

(令和五年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。



真宗高田派共済会のご案内

真宗教学奨学金

真宗高田派の寺族で真宗教学に関する研究心旺盛な者に対して、奨学金を貸与します。

・高等学校生及び真宗各派の専修学院生	月額	2万円	若干名
・大学生及び大学院生	月額	4万円	若干名
・ ” ”	月額	8万円	”

提出書類：所定の申請書1通、在学証明書1通(学生証の写可)
返済に関する事項を熟知下さい。

奨励金

真宗高田派の僧侶が、定められた学校に入学したときに、奨励金を支給します。

・奨励金 4万円

提出書類：所定の申請書1通、入学証明書又は在学証明書1通
(学生証の写し可、合格通知書は不可)

定められた学校とは、下記に該当する学校及び学科です。

真宗各派の専修学院、私立高田高等学校、大学の真宗学科及び仏
教学科 短期大学の真宗学科及び仏教学科

上記の申請は毎年3月1日から5月末日までに行ってください。
申請に関する事項及び詳細につきましては共済会担当までお尋ね
下さい。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当まで
お尋ねください。

〒514-0114

三重県津市一身田町2819番地

真宗高田派宗務院内

真宗高田派共済会

電話 059-232-4171

F A X 059-232-1414

親鸞

850TH ANNIVERSARY SPECIAL EXHIBITION
SHINRAN
The Life and Legacy of the Founder of Shin Buddhism
 March 25–May 21, 2023

生涯と名宝



特別展
親鸞聖人生誕850年

縁鳥

いまこそ、
 親鸞の
 声を聞く。

2023年
3月25日(土)～5月21日(日) [主な展示替] 前期展示 3月25日(土)～4月23日(日) ※会期中、一部の作
 品は注記を行います。
 後期展示 4月25日(火)～5月21日(日) 展示替を行います。

京都国立博物館 平成新館 KYOTO NATIONAL MUSEUM(東山七条)
 京都市東山区茶屋町527 お問合せ:075-13351473(レホンサービス)

休館日 月曜日 開館時間 午前9時～午後5時30分まで 入館は閉館の30分前まで 主催 京都国立博物館、朝日新聞社、
 NHK京都放送局、NHKエンタープライゼス近畿 特別協力 真宗教団連合 公式サイト <https://shinran850.jp/>

国宝 親鸞聖人影像(安城御影副本) (部分)
 京都・西本願寺 (3月25日～4月2日展示)
 桜花園・松・蔭花園のうち桜花園(部分)
 望月玉泉筆 京都・東本願寺 (通期展示)

	ご門徒 特別観覧料金 (3/25～5/21)	通常 当日料金 (3/25～5/21)
一般	1,600円	1,800円
大学生	1,000円	1,200円
高校生	500円	700円

※中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料となります(要証明)。
 ※大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。
 ※会期、展示作品等は今後の諸事情により変更する場合があります。

貸し切りバスを利用して来館のご門徒様につきましては、親鸞展の貸し切りバスの乗降予約と団体観覧予約が必須です。

親鸞展割引引換券

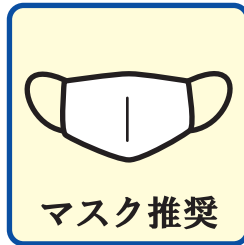
本券を切り取り、下記の割引料金をそえて、京都国立博物館南門チケット売場にて観覧券をご購入の上、ご入館ください

- 1枚につき4名様限り、真宗教団連合各派寺院、ご門徒の利用に限りコピー可
- 他の割引特典等との併用はできません

一般当日 1,800円 → 1,600円
 大学生当日 1,200円 → 1,000円
 高校生当日 700円 → 500円

旅行会社、または団体の責任者(寺院様)より、親鸞展事務局(Eメール shinran10@jtb.com、FAX 075-284-0153、電話 075-276-2282)まで貸し切りバス乗降予約と団体観覧予約をお申し込みください。

安心・安全にご参拝いただくために



感染対策の詳細は
ホームページで
ご確認ください。

参拝の皆様へ【お願い】

- ・会話の声量は控えめに。
- ・密集を避けるため、お互いに間隔を広くとってください。
- ・検温、アルコール消毒にご協力ください。
- ・境内飲食厳禁。飲食エリアをご利用ください。

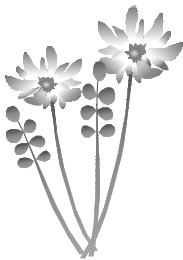
あらかじめ、ご承知おきください

- 発熱（37.5℃以上）や咳・のどの痛みなど新型コロナウイルス感染が疑われる症状のある方、濃厚接触者の方は入場をお断りする場合がございます。
- 感染拡大の状況により、予定している行事等の中止、延期又は規模縮小をさせていただく場合があります。

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋



令和五年四月二十五日印刷
令和五年四月二十五日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三―四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇二五〇―〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三―二〇七〇